



日本共産党
勝川志保子

通学路の安全確保のために市として迅速な対応を

Q 児童数の急増などで危険度が高い通学路などの整備や、民有地ブロック塀の撤去は、教育委員会や地域任せにせず、全庁的な責任体制で迅速に対策を取るべきでは。

既存の組織を活かした対応の充実に努める

A 関係部署との連携強化を図ることで、対策事業の実施に繋げた事例がありますので、既存の組織を活かした対応の充実に努めます。



歩道が狭く危険な通学路

市役所雇用に広がる非常勤職員の待遇の改善を

Q 司書や保育士など、専門職種も多く含む非常勤職員は、資格、能力、経験などに見合うように、給与や待遇など雇用の改善を。

業務内容を考慮しながら検討していく

A 職種ごとに資格による専門性や職務の困難度を勘案して初任給を設定し、勤務評価が良好であれば上限まで毎年度昇給するとともに、期末手当についても常勤職員と同じ月数分を支給する予定です。また、勤務条件では、国に倣い、特別休暇を新設するなど、職務に応じた待遇になっています。今後、業務内容を考慮しながら検討していきます。

【その他の質問事項】

・有権者の選挙権行使を保障する選挙のあり方は



至誠の会
鷺山喜久

製造品出荷額が平成21年から県内市の部で6位に

Q 掛川市の工業製造品出荷額は、平成21年から、県内23市中毎年6位である。統計によると、出荷額は多い年で1兆6112億円。少ない年で1兆200億円である。このままでは、他市に追い抜かれる。1位は浜松市から静岡市に変わった。本市の順位が下がった主な理由と順位をあげていくために市としての方策を伺う。

地域の産業力を強化していく

A 出荷額の減少は、リーマンショックの影響のほか、情報通信機器製造業に属する大手企業の撤退や、小規模事業所の合併や廃業などにより、事業所数が平成20年の436件から平成28年は349件と87件、2割程度減少したことが原因と考えています。掛川市が持続的に成長するため

には、基幹産業である製造業の活性化が不可欠です。引き続き既存企業の支援に努めるとともに、今後、成長が期待される次世代自動車や光・電子技術分野などの産業を誘致することで、地域の産業力を強化していきたいと考えています。その結果、工業出荷額の回復が図られ、順位を上げることができれば大変うれしく思います。



エコポリス案内看板

【その他の質問事項】

・基金の運用等について
・内陸フロンティア推進区域内、産業集積推進区域3カ所、整備推進区域1カ所について